

K-584

米沢市埋蔵文化財調査報告書 第93集

上谷地B遺跡

発掘調査報告書



出土土器 AZ5

2008

米沢市教育委員会

米沢市埋蔵文化財調査報告書 第93集

上谷地B遺跡

発掘調査報告書

2008

米沢市教育委員会

序 文

本報告書は、宅地造成にかかわる受託事業として、米沢市教育委員会が実施した『上谷地B遺跡』の発掘調査報告書です。

遺跡は、上郷地区に位置する縄文晩期を中心とした集落跡として登録されています。西方には県立米沢工業高等学校、北方には平成17年に発掘調査を実施した野際遺跡が隣接しています。

この度の調査で、遺構としては旧河川跡、遺物としては縄文時代の土器、石器等の他に奈良時代の土師器、須恵器が出土しました。特に縄文晩期の土器は、米沢市内でも数少なく注目されるものです。

今回の調査で得られた成果は、縄文時代や奈良時代を研究する資料として貴重であり、未永く活用する所存です。また、本書が文化財保護の啓発や教育活動の一環として役立てば幸いに存じます。

最後になりましたが、今回の発掘調査にあたり、格段のご指導を賜りました文化庁、山形県教育庁教育やまがた振興課文化財保護室、ご協力頂きました太田元氏、(株)網代建設並びに地元関係各位に対し、心から感謝申し上げます。

2008年3月

米沢市教育委員会

教育長　舛田忠雄

例　　言

1 本報告書は、宅地造成工事にかかる緊急発掘調査として、米沢市教育委員会が実施した上谷地B遺跡発掘調査報告書である。

2 調査は、米沢市教育委員会が主体となって、網代建設株式会社との受託事業として実施したものであり、期間は平成19年6月11日～同年6月19日の延べ9日間である。

3 調査体制は下記の通りである。

調査主体	米沢市教育委員会
調査総括	村野 隆男（教育管理部文化課長）
調査担当	手塚 孝（教育管理部文化課文化財主査）
調査主任	菊地 政信（教育管理部文化課文化財担当主査）
調査参加者	小形 直美 坂野ちゑ子 新藤伊勢夫 丸山 忠俊 近野 慶子 重野 正美 永井ゆり子 渡辺 悟
事務局	佐藤 孝市（教育管理部文化課長補佐） 青木 千尋（教育管理部文化課文化財担当主任） 遠藤 知沙（教育管理部文化課臨時職員）
調査指導	文化庁 山形県教育庁教育やまがた振興課文化財保護室
調査協力	太田 元 網代建設株式会社

4 挿図の縮尺はスケールで各図に示した。

5 出土遺物は米沢市埋蔵文化財資料室（米沢市花沢町1丁目4-21）に一括保管している。

6 本報告書で使用した略号は、AZ-土器、BZ-石器、CZ-礫器、EZ-石製品を表示している。

7 本書の作成は菊地が中心となり、小形直美、近野慶子が補佐し全体的には手塚が総括した。

本文目次

序文	
例言	
I 遺跡の概要	1
II 調査の経過	1
III 検出遺構	4
IV 出土遺物	
(1) 縄文時代の遺物	4
(2) 奈良時代の遺物	7
(3) 中世の遺物	7
V まとめ	24
参考文献	24
報告書抄録	25

挿図目次

第1図 上谷地B遺跡位置図	2
第2図 上谷地B遺跡調査範囲図	3
第3図 上谷地B遺跡遺構平面図	5
第4図 上谷地B遺跡遺物出土点平面図	8
第5図 上谷地B遺跡出土土器拓影図(1)	9
第6図 上谷地B遺跡出土土器拓影図(2)	10
第7図 上谷地B遺跡出土土器拓影図(3)	11
第8図 上谷地B遺跡出土土器実測、拓影図(4)	12
第9図 上谷地B遺跡出土石器実測図(1)	13
第10図 上谷地B遺跡出土石器実測図(2)	14
第11図 上谷地B遺跡出土石器実測図(3)	15
第12図 上谷地B遺跡出土礫器実測図(1)	16
第13図 上谷地B遺跡出土礫器実測図(2)	17
第14図 上谷地B遺跡出土礫器実測図(3)	18
第15図 上谷地B遺跡出土礫器実測図(4)	19
第16図 上谷地B遺跡出土土師器、須恵器実測図	20

付 表 目 次

第 1 表 上谷地B遺跡出土土器観察表	21
第 2 表 上谷地B遺跡出土石器計測表	22
第 3 表 上谷地B遺跡出土石製品計測表	23
第 4 表 上谷地B遺跡出土礫器計測表	23

図 版 目 次

第 1 図版 上谷地B遺跡の発掘	
第 2 図版 上谷地B遺跡出土土器	
第 3 図版 上谷地B遺跡出土土器	
第 4 図版 上谷地B遺跡出土遺物	

I 遺跡の概要

第1図で示す様に、本遺跡は米沢市街地東部を流れる天王川（梓川）及び羽黒川の流域にあたり、八幡原工業団地の南西端に位置している。

遺跡は旧羽黒川と東側の河川（旧梓川）とが合流する低地に立地し、北側の河岸段丘に平成17年度に発掘調査を実施した野際遺跡が立地する。（第2図参照）

野際遺跡からは、縄文時代後期末葉から晩期初頭に併行する竪穴住居跡4棟が検出された。さらに、今回の調査地点からは以前に縄文晩期の丸木弓が出土しており、注目されていた場所である。

低地の調査区、南側は高台になっており、比高差は約3mを有する。高台と低地の河川跡を含めた、東西120m、南北150mの18,000m²が本遺跡の範囲である。高台の東箇所には、土壘と堀が現存しており「安部館跡」と呼ばれている。館跡の大半は現在畠として利用され、耕作土に石器等が混入していることから、複合遺跡と判断される。

II 調査の経過

今回の調査は、地元の建設会社が第2図で示す範囲に宅地造成を計画したことを受け、平成19年5月8・9日に試掘調査を実施した。その結果、開発範囲の東側を中心に表土下30cmの深さから土壤群及び縄文晩期の遺物が確認された。

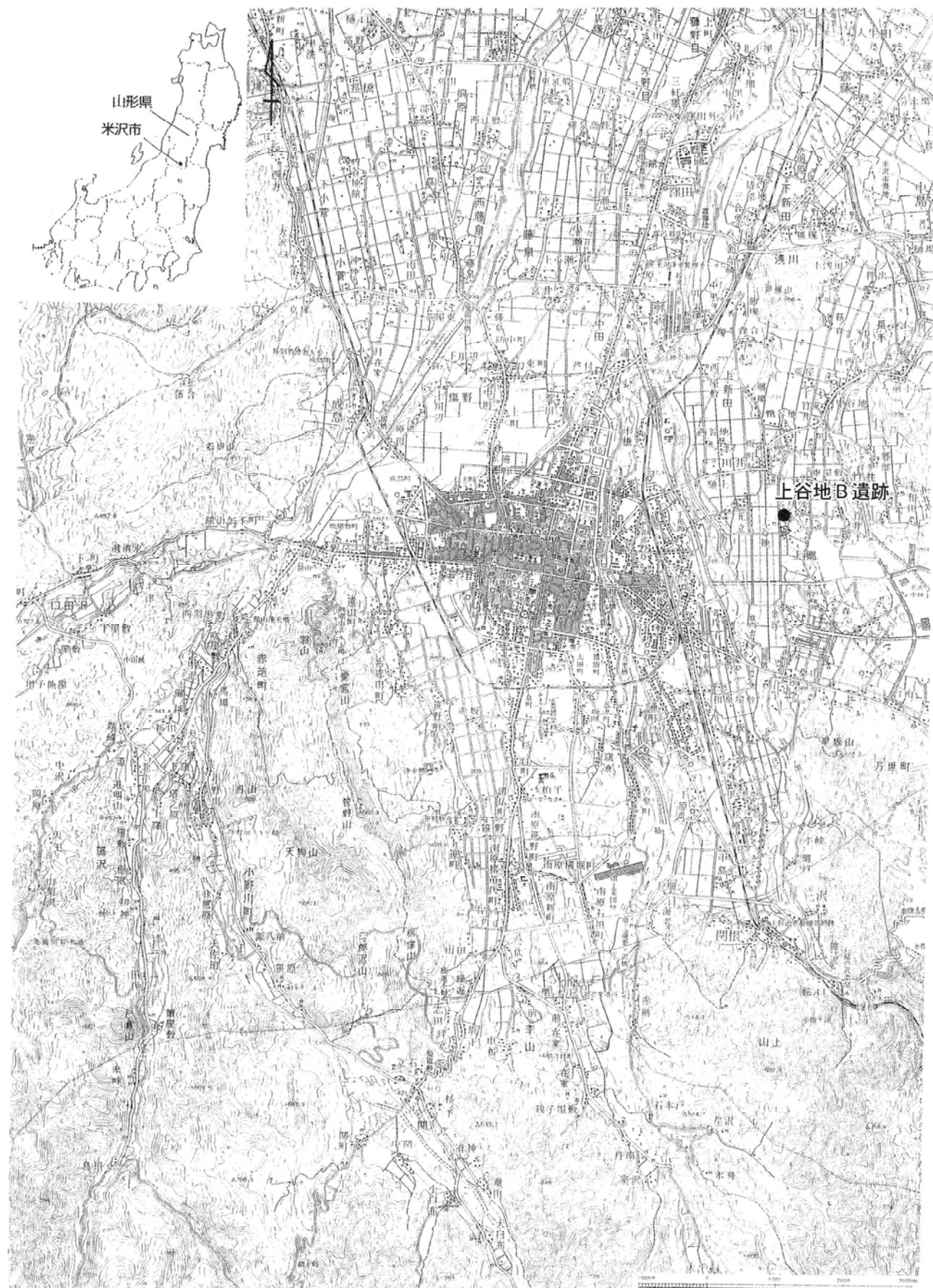
これらの遺構群に影響を与えない工事法が検討されたが、遺物が集中する箇所は地盤が軟弱なことから、造成工事による破壊は避けられないとの結論に至った。そのため、この地域について発掘調査を実施することになり、同年6月11日に受託事業として契約を締結した。

調査区は、第3図で示す南北23m、東西16mの範囲であり契約日から発掘調査を開始した。現況は、図版1で示す様に水田であり、西南の隅には高台に水を汲み上げる為のヒュウム管を差し込んだ井戸がある。（調査区全景、南東からの写真を参照）

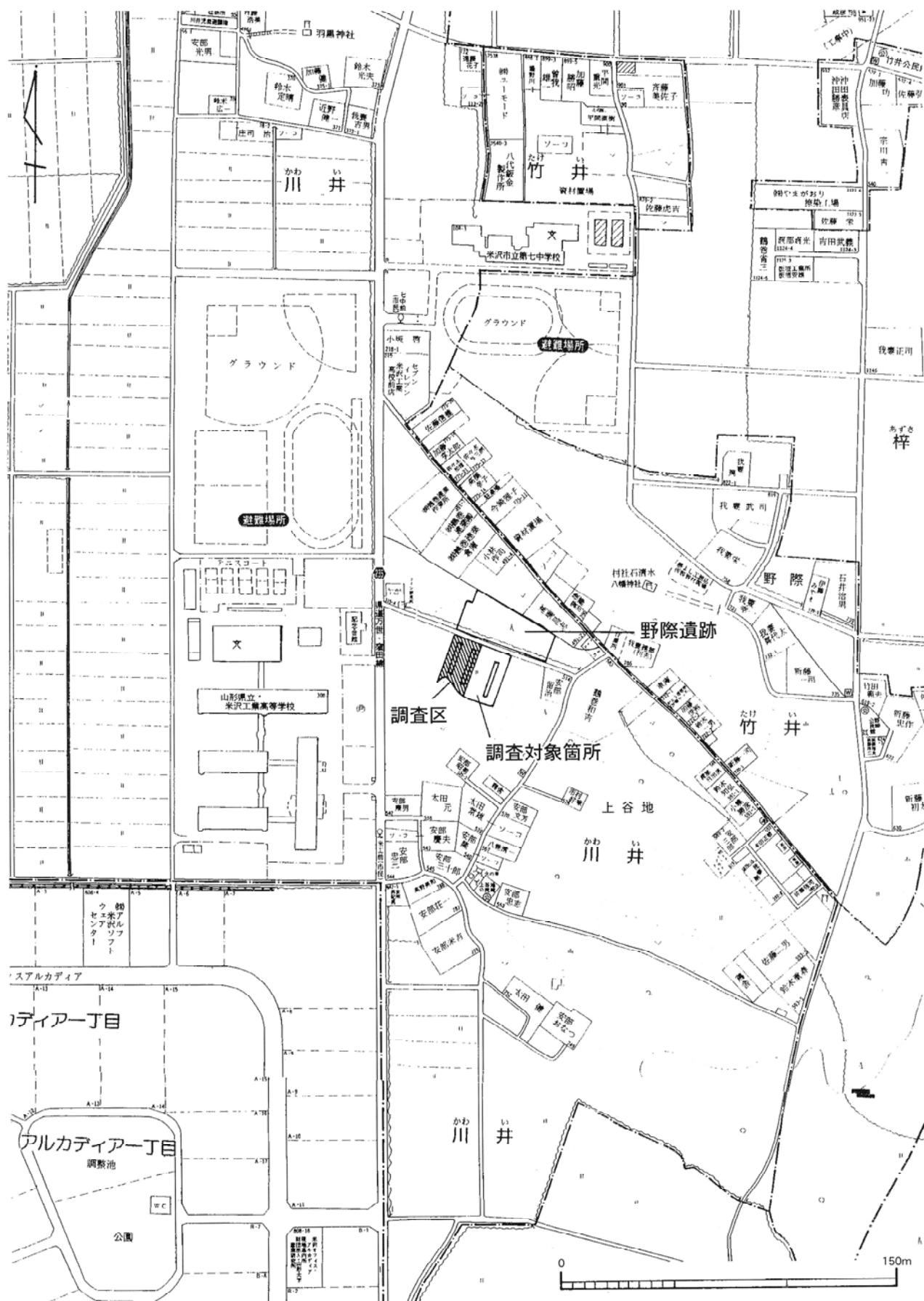
表土剥離は、小型の重機を使用し1日で終了した。この日は、石器や縄文土器の他に須恵器片も出土したことから、奈良時代の遺跡も複合していることが判明した。また、暗渠の施設が南北に設置されており、多量の湧水があり調査に支障をきたすことから、暗渠管をそのままにして調査を進めることにした。

河川跡の泥炭層に遺物が混入している状況であり、さらに前述した井戸の設置による搅乱が広範囲に及んでいる。

自然流木や倒れた立ち木が検出され、河川跡が自然に埋没していった状況が認められた。調査が進行するに至り、湧水に悩まされポンプ2台で水を汲み上げながらの調査となつた。遺構が認められなかつたことから、同年6月19日までに掘り下げが完了し、その日の午後から平板測量や写真撮影を実施した。調査期間は、延べ9日間、調査対象面積は1,567m²、調査面積は239m²であった。



第1図 上谷地B遺跡位置図



第2図 上谷地B遺跡調査範囲図

III 検出遺構

今回の調査区からは、自然遺構として河川跡が検出された。河川跡は、旧梓川もしくは支流と推測されるもので、最大幅は38mと判断される。また、出土した遺物から中世まで機能していたと考えられる。

第3図の調査区遺構平面図で示す様に、北側に流木が集中して検出され、蛇行するこの箇所から次第に埋没していった状況を呈している。また、第4図は遺物出土点であり北西の流木が倒れた面からAZ 11・12・14（第16図1・3）の奈良時代の土師器、須恵器が認められた。

奈良時代には、土砂の堆積により川底が隆起し水深は30cm程度であったと判断される。中世には、南北の段丘に館が構築され河川跡は堀としての役割を果たしていたことが明らかになった。

中世の遺物としては、第11図4の擂鉢がある。出土層は、耕作土であったことから地点は明確ではないが、館跡に関連する遺物と想定される。

縄文時代は、第4図の遺物出土点で示す様に南方部に集中し、特に最深箇所の西南からの出土数が多く認められた。段丘からの比高差は4mあり、現在も湧き水が認められた。第4図セクション図の3・4層に遺物が混入しており、奈良時代の遺物が第2層から出土している。遺物の出土状況から、縄文時代後期終末期から晩期には南側の段丘直下は穏やかな流れの河川であったと推測される。

IV 出土遺物

出土した遺物の総数は、3,481点であった。これらの遺物を大別すると、縄文土器3,003点、石器35点、剥片368点、礫器28点、石製品2点、土製品1点、須恵器坏2点、土師器20点、中世陶器2点、流木20点となる。これらの遺物群について、年代別に説明を加える。

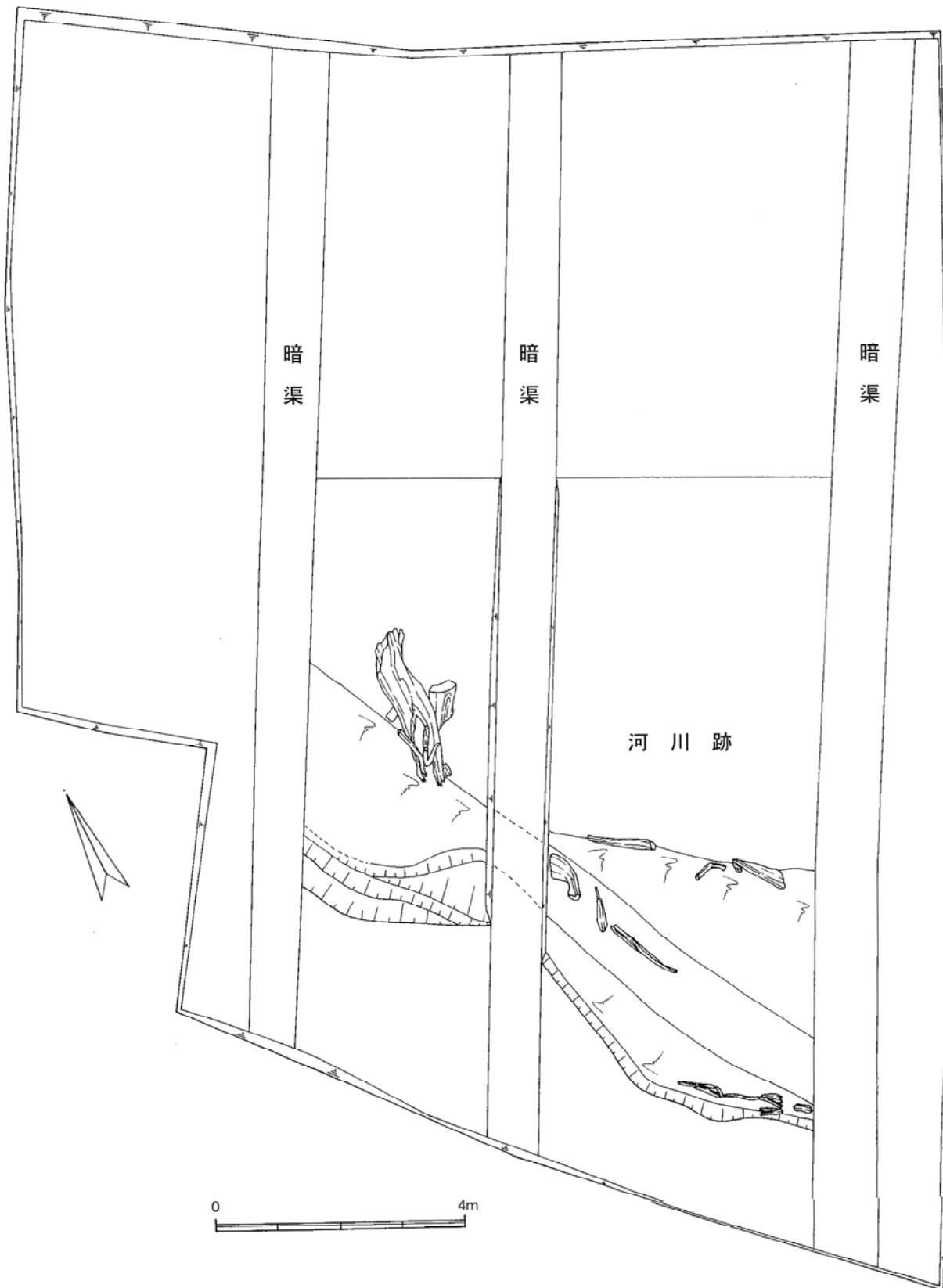
(1) 縄文時代の遺物

○土器

出土遺物の大半を占める縄文土器は、文様や器形等の吟味から縄文時代後期終末～縄文時代晩期に位置する土器群である。これらの土器群と共に存する石器や石製品、土製品及び礫石器も土器群に併行する遺物群として把握される。

縄文土器は、第4図で示す様に調査区南西部地点3・4層からの出土であり、河川の淀み箇所と考えられる。土色は、3層が黒褐色砂層、4層は暗黒褐泥炭層での層からの出土が大半であった。出土遺物の中で磨滅によって文様が判別できない土器は、1,038点あり全体の約三分の一を占める。個体別に見てみると、底部145点、口縁部162点であった。この数字から考慮すれば、約100個体分の縄文土器が出土と考えられる。

文様を有する縄文土器209点、縄文を施文した土器463点、無文土器1,148点で、



第3図 上谷地B遺跡遺構平面図

文様を有する縄文土器の割合が少なかった。

器形は、深鉢形土器、台付土器、鉢形土器、小形土器が認められ深鉢形土器の破片が多く出土している。

これらの出土した縄文土器群の中で、文様の判別が可能な 88 点について実測図や拓本、第 1 表に観察表を作成した（詳細参照）。次に文様の表出技法や器形、胎土の吟味から細別して述べる。なお、暗渠等の工事によって部分的に搅乱を受けており、層位的な把握が困難であった。

・ a 類土器

第 5 図 1 に代表される文様構成の土器群で、粘土を丸めて貼り付けた瘤付土器である。口縁部から胴下半部までの破片であり、口縁部が外反する器形を有する。胴下半部、底部が欠損しているが、文様が施文されるのは出土した破片までと考えられ、胴下半部は縄文や無文と想定される。他に第 6 図の 1 ~ 4 などの土器がある。

瘤を中心に文様が展開する構成で、帯状突刺文が弧線状に施されている。前述した野際遺跡出土の瘤付土器が沈線の弧線や帯状の空間に縄文を施文する構成に比べると両者に若干の時間差を感じる。

第 6 図 4・6 は、野際遺跡出土の瘤付土器に類似するが、帯状の突刺弧線文は胎土等の観察から縄文晩期前葉に位置する土器群と考えられる。

・ b 類土器

大洞 B 1・B 2 類の入組文を主体とする土器群である。大洞 B 1 類の特徴を有する土器としては、第 7 図 15・16 の様に入組帶縄文が多く認められる。大洞 B 2 類は入組三叉文の土器群であり、第 5 図 3 に代表される文様である。

・ c 類土器

大洞 B C 類の土器群であり、羊歯状文の第 7 図 1~11 などが認められる。いずれも小破片であるが器形は台付鉢や浅鉢で、器面は研磨が丹念に施されている。

第 8 図には、底部の形態や条痕文土器、縄文土器、無文土器でこれらの土器群は、a~c 類の土器群と共に存する土器群であり、縄文時代晩期前葉～中葉に位置すると言える。

○石 器

調査区の全域から出土しているが、土器と同様に搅乱層からも認められた。形態別の出土数は、石鏸 8 点、石錐 6 点、籠状石器 6 点、石匙 7 点、打製石斧 4 点、磨製石斧 1 点、石核 3 点であった。列挙した順に説明を加える。

・ 石 鏰

第 9 図 1 無茎石鏸以外は、有茎石鏸で占められる。石材は同図 5 のチャートを除き珪質頁岩である。同図 8 の基部には接着剤に使用したと考えられる漆が付着していた。

・ 石 锥

棒状の第9図9～11、つまみ部を有する同図12～14の2形態が認められた。実測図に実線で示した縁辺に使用痕が認められた。石材は、14の瑪瑙を除き珪質頁岩で占められる。

・籠状石器

第9図16～20であり、全て欠損品であった。縁辺の観察から、使用による欠損と考えられ、柄着装痕が同図16・19に認められた。

・石匙

第10図1～6・8に示した石器であり、横型と縦型の2形態が認められた。前者の形態が多く同図1～5、後者は6・8である。縁辺に調整を加えて、簡単に仕上げており、実線で示した縁辺に使用痕が認められた。

・打製石斧

第11図1・2の撥形の形態を有し、両面調整によって整形されている。同図2に柄着装痕及び、刃部に使用痕が認められた。

・磨製石斧

第9図15の1点が出土しており、定角式磨製石斧の頭部破片である。地元産の緑泥片岩を石材に用いて、整形している。断面から判断して使用による欠損であろう。

・石核

紙面の都合により実測図は割愛したが、3点出土している。石材は珪質頁岩であり、自然面があることから小礫を使用した石核残痕である。

・石製品

第10図7、第11図3の2点が出土しており、前者は円盤状石製品、後者は石錘である。自然礫を素材とし、両面に自然面を有する。

○礫 器

第12図～第15図に実測図、第4表に詳細を示した。敲石は16点であり、敲痕が単数のa類6点、複数のb類10点、磨石c類3点、台石3点、石皿3点、砥石1点の合計26点が出土し、土器の出土地点に集中する傾向が認められた。

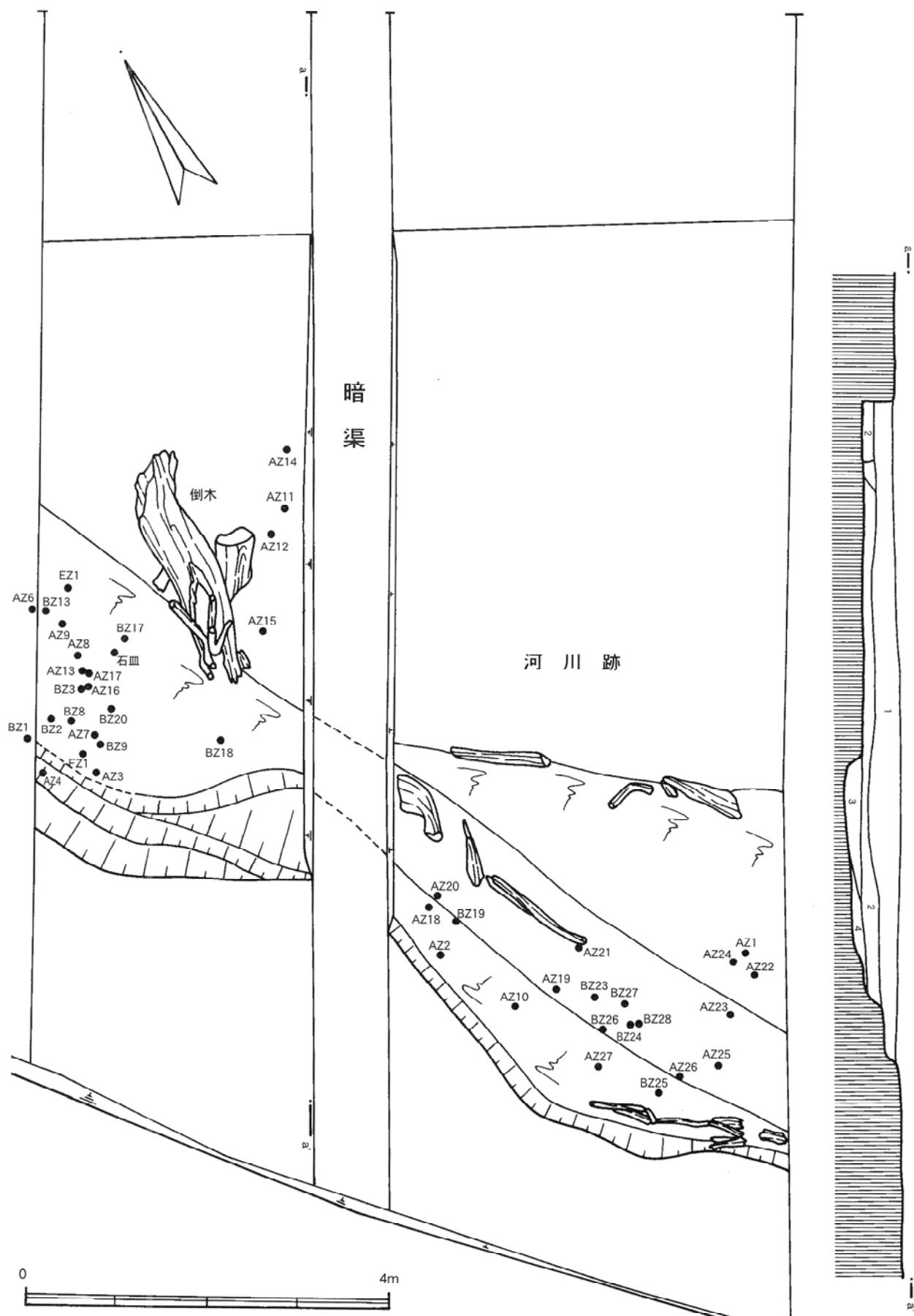
(2) 奈良時代の遺物

第16図の3・5が内黒土師器坏、同図7が内黒土師器蓋、同図1・2・4・6が須恵器坏同図8は須恵器壺の破片であり、2層からの出土であった。底部は回転ヘラ切無調整で、1・6は意図的に口縁部を打ち碎いた状況を呈していた。

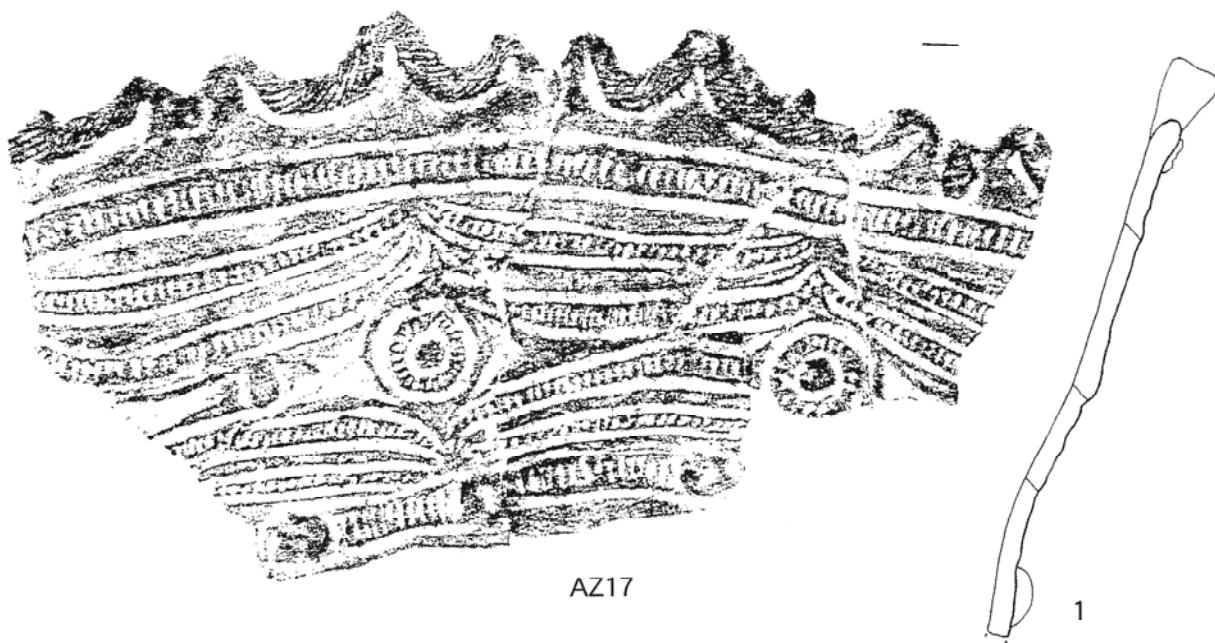
内黒土師器坏の底部は、回転ヘラ切調整によって仕上げられ、同図3は外面の底部近くに回転ヘラ削り調整が認められる。これらの遺物は、底部径や調整法から奈良時代後葉に位置づけられる。

(3) 中世の遺物

第11図4であり、暗赤褐色の瓦器系中世陶器で擂鉢下半部片に相当する。内面の擂り目は使用によって磨滅していた。13世紀～14世紀代の遺物と考えられる。

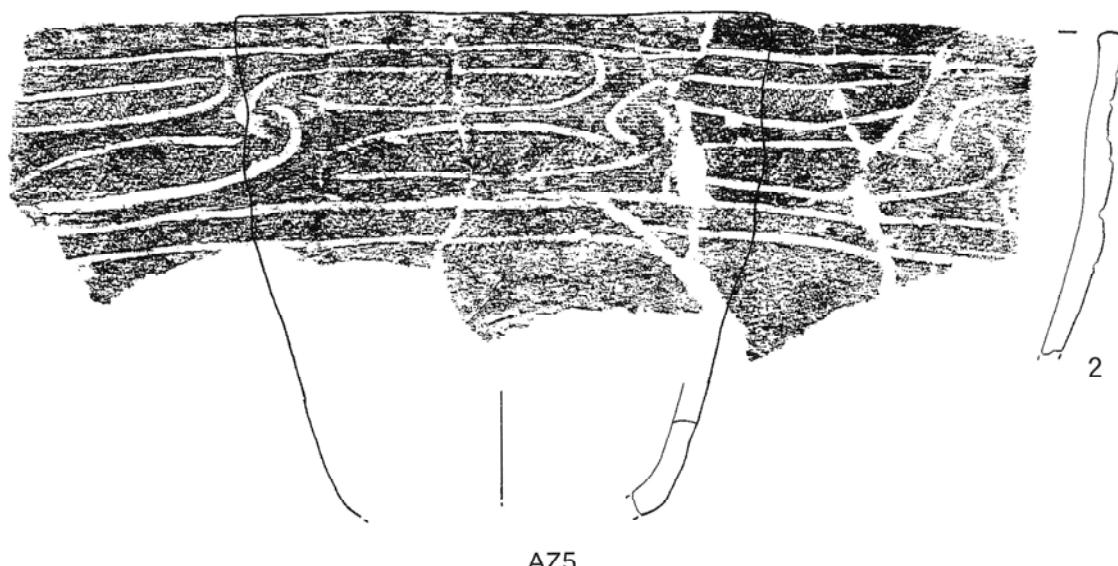


第4図 上谷地B遺跡遺物出土点平面図



AZ17

1



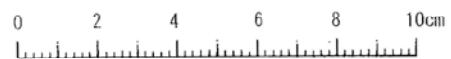
AZ5

2



AZ8

3



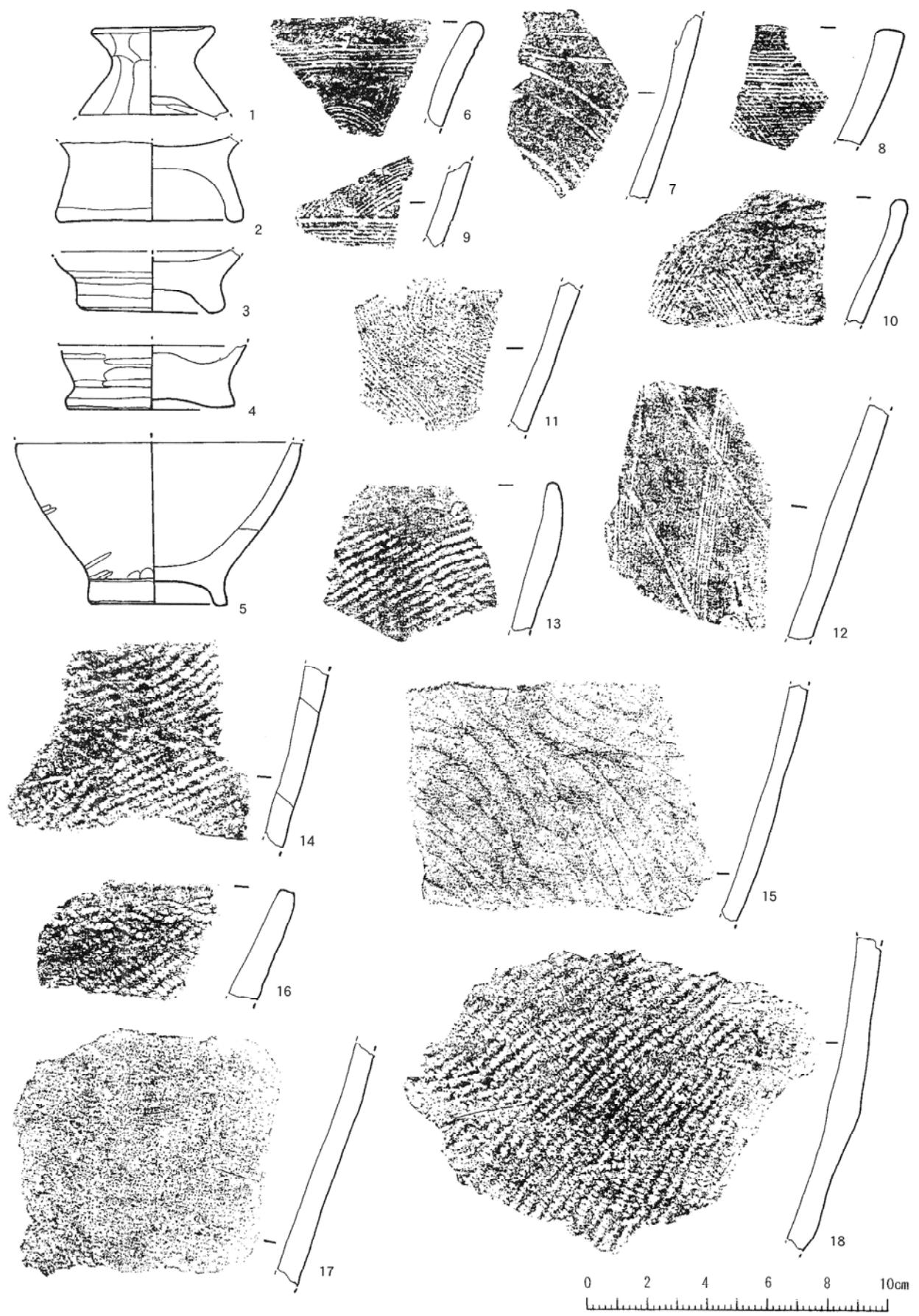
第5図 上谷地B遺跡出土土器拓影図(1)



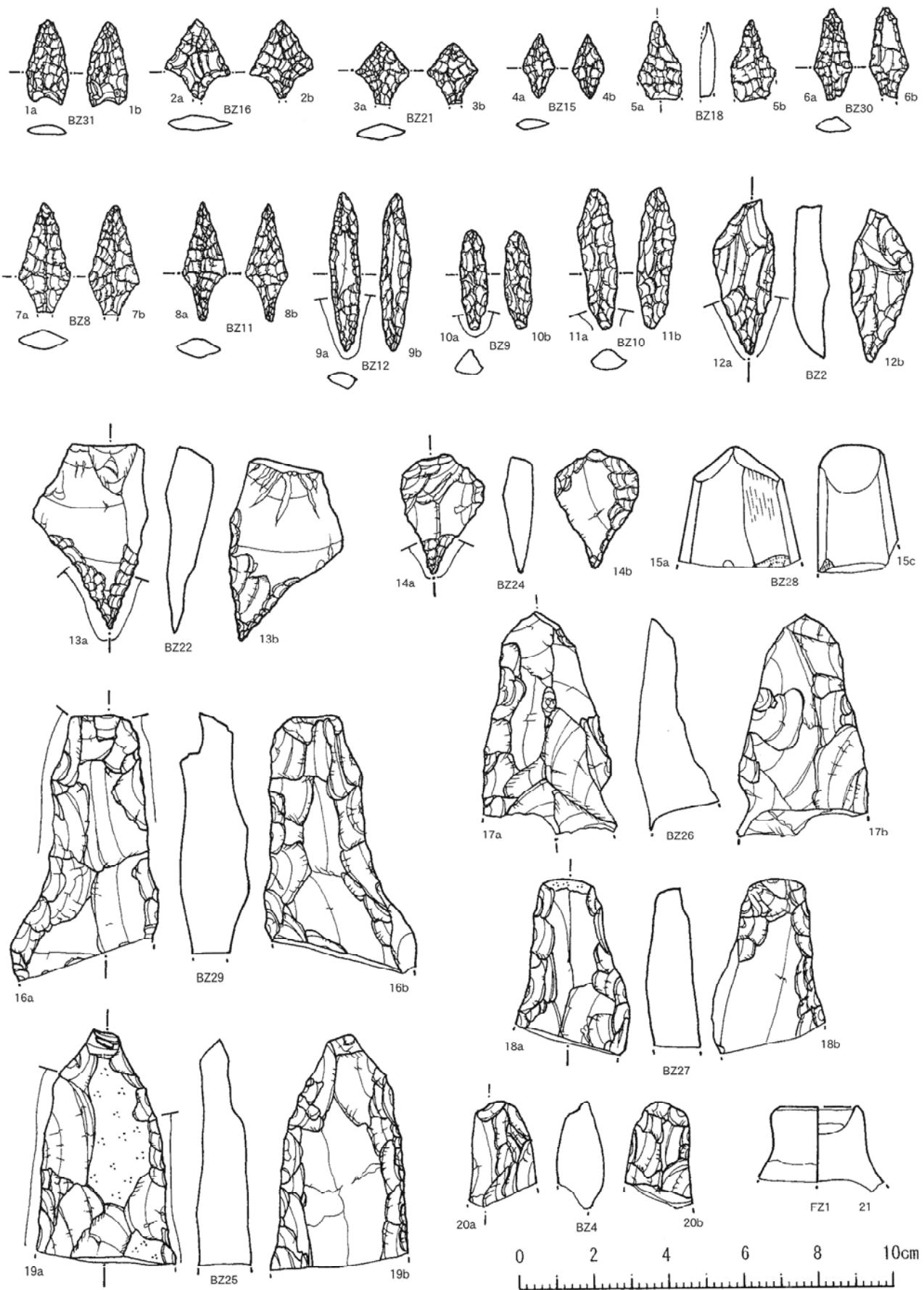
第6図 上谷地B遺跡出土土器拓影図(2)



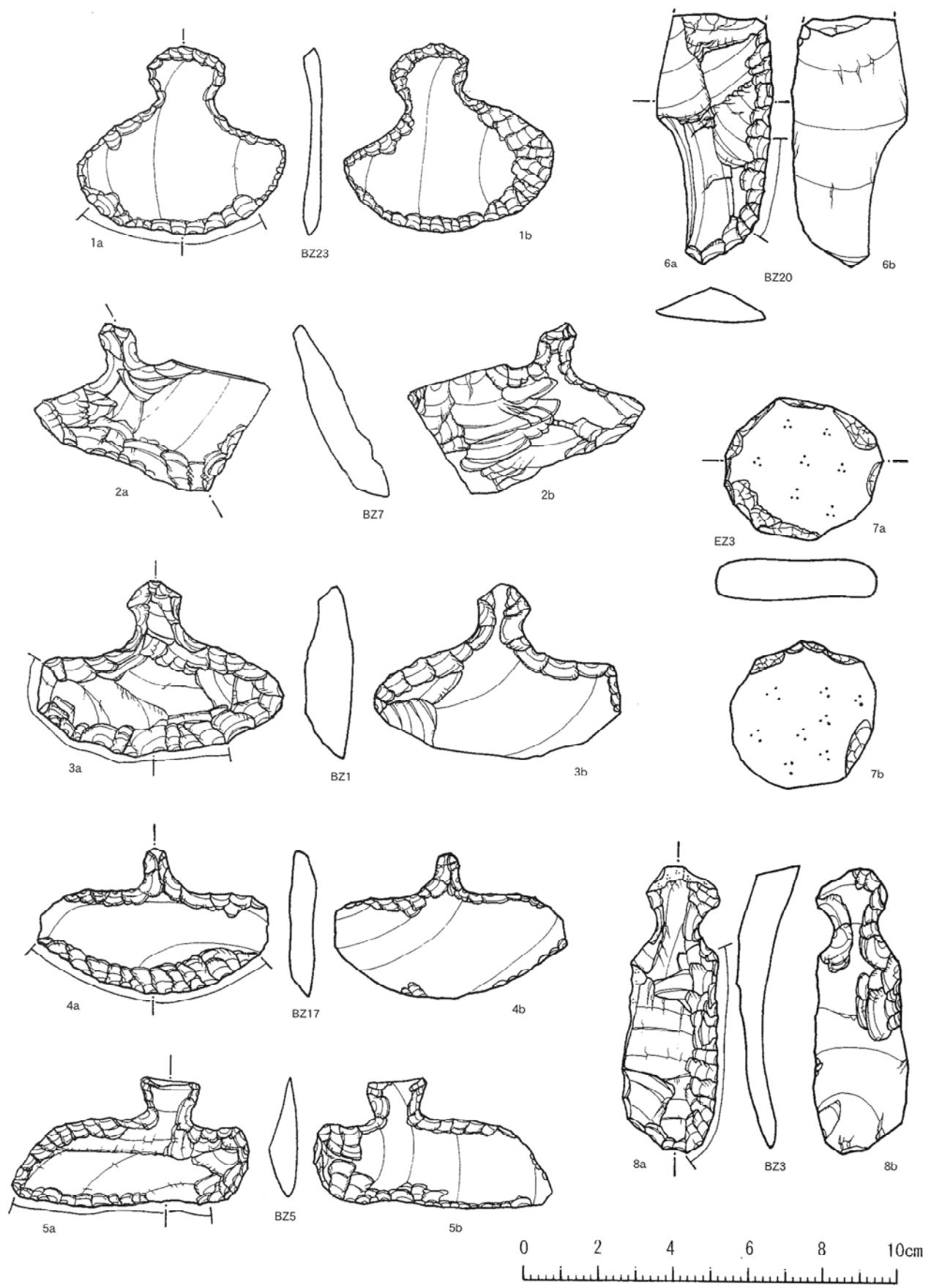
第7図 上谷地B遺跡出土土器拓影図(3)



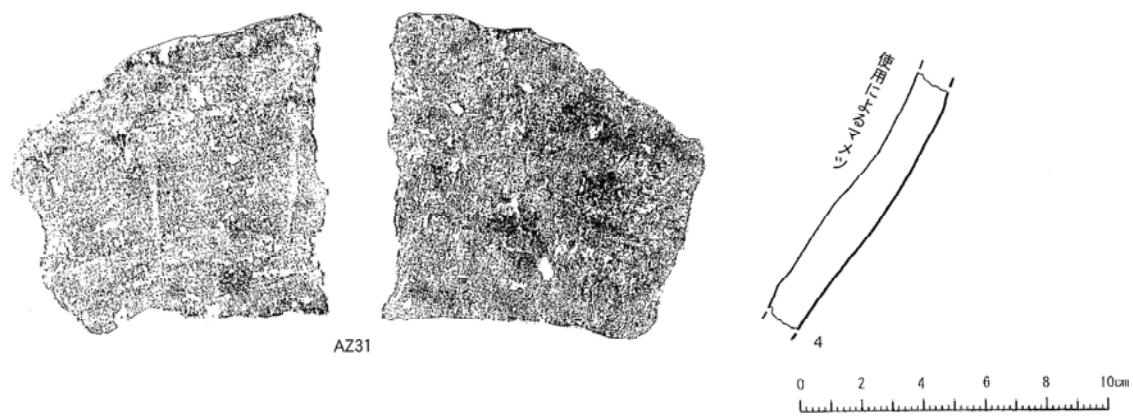
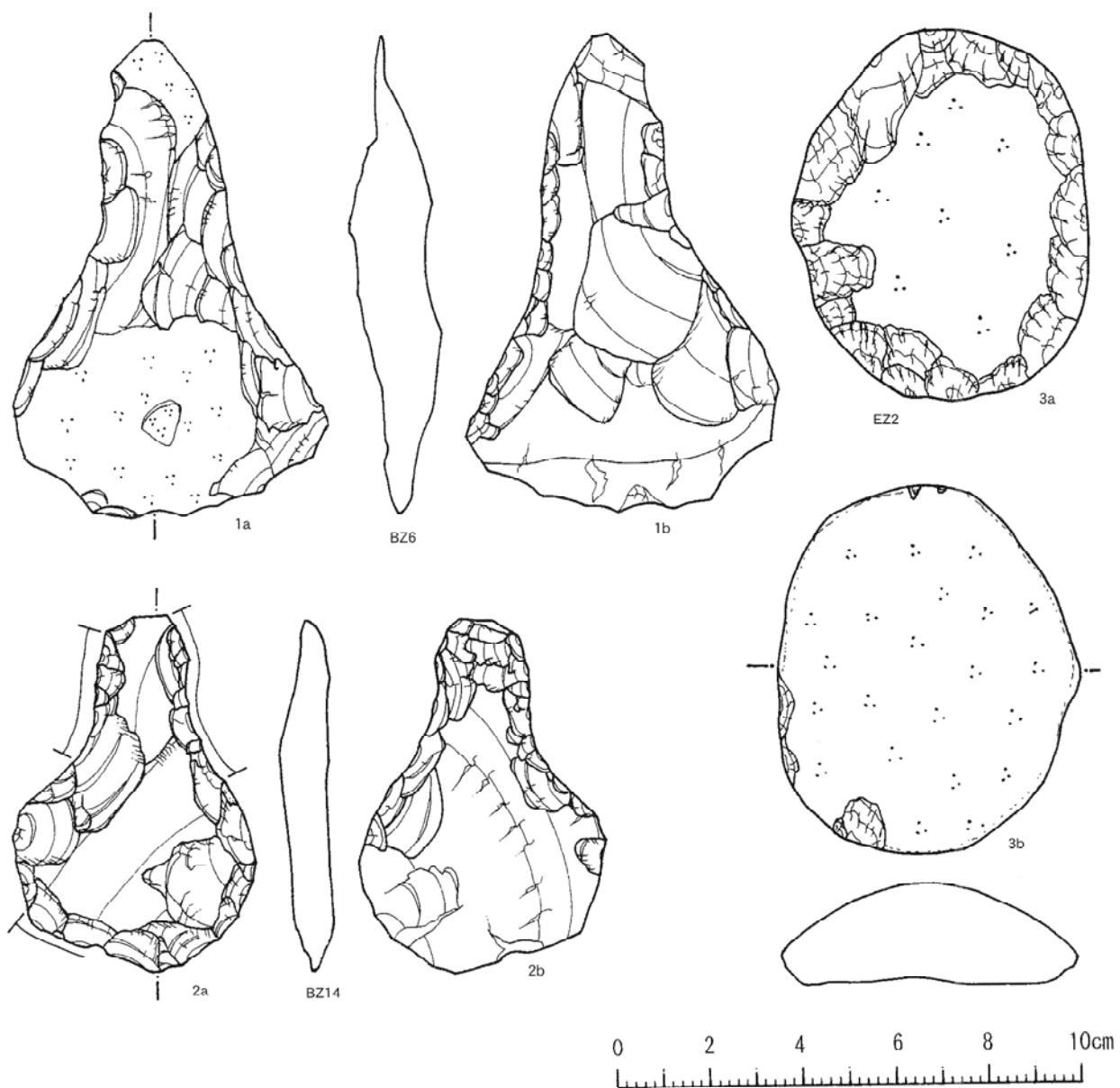
第8図 上谷地B遺跡出土土器実測、拓影図(4)



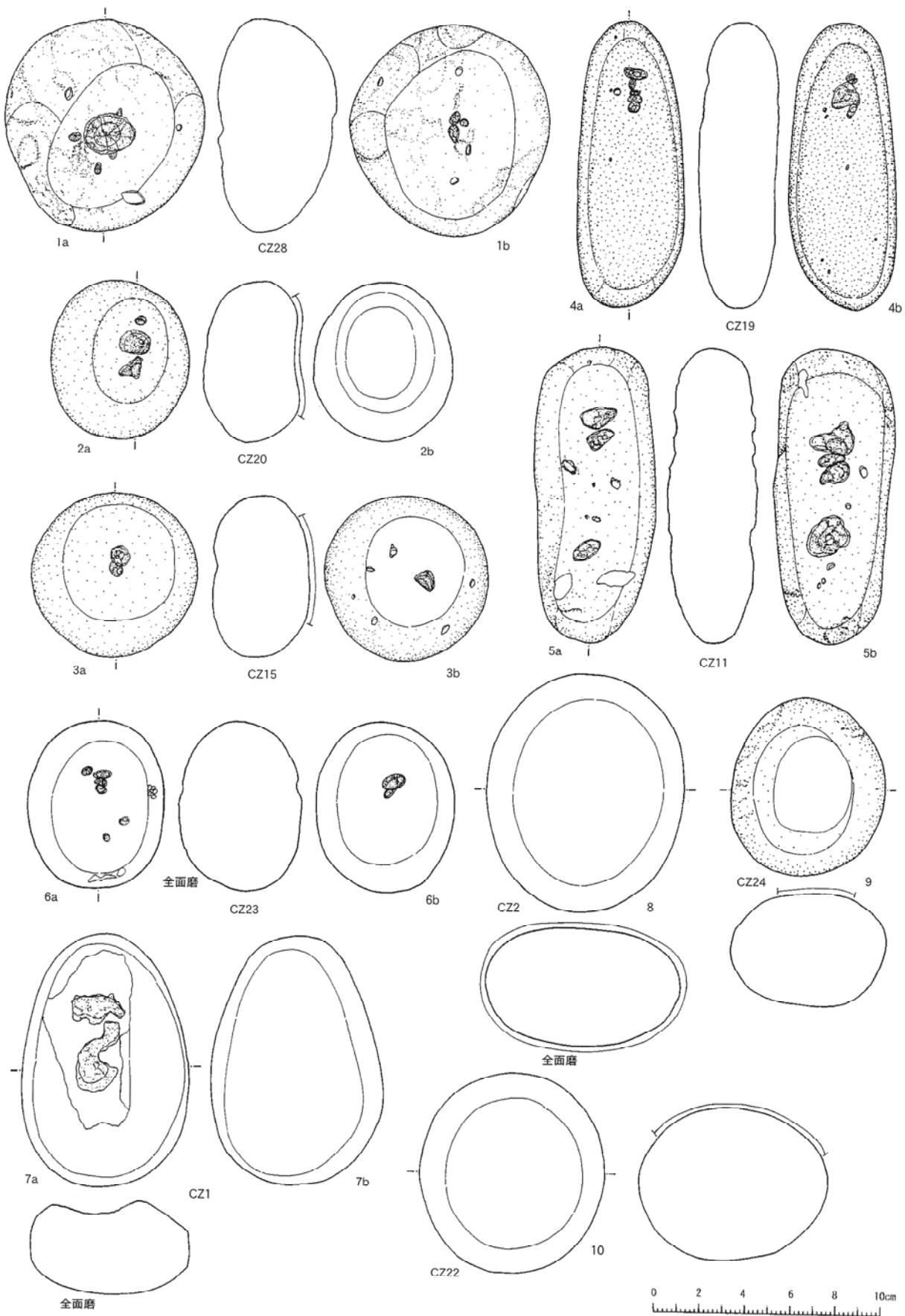
第9図 上谷地B遺跡出土石器実測図(1)



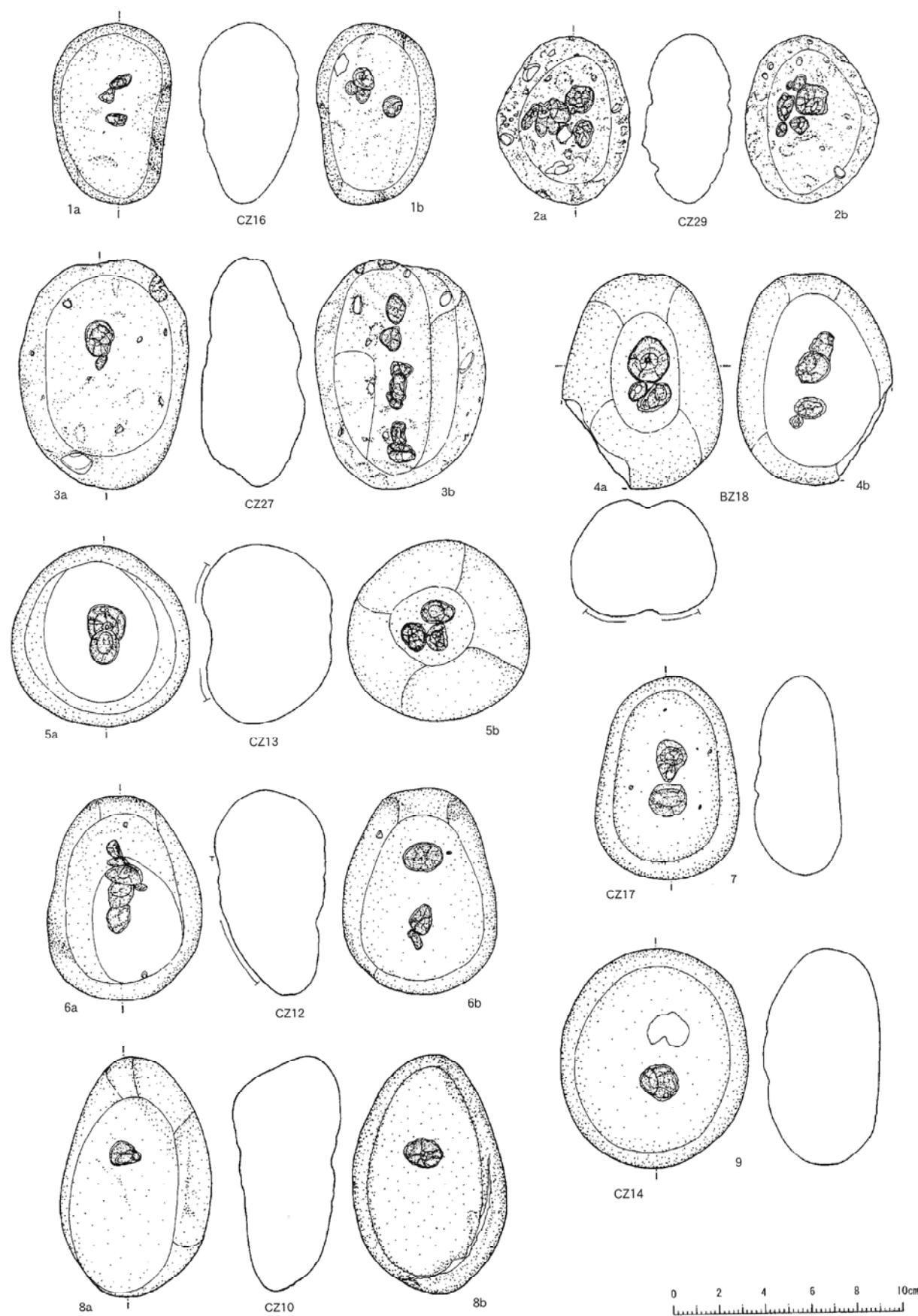
第10図 上谷地B遺跡出土石器実測図(2)



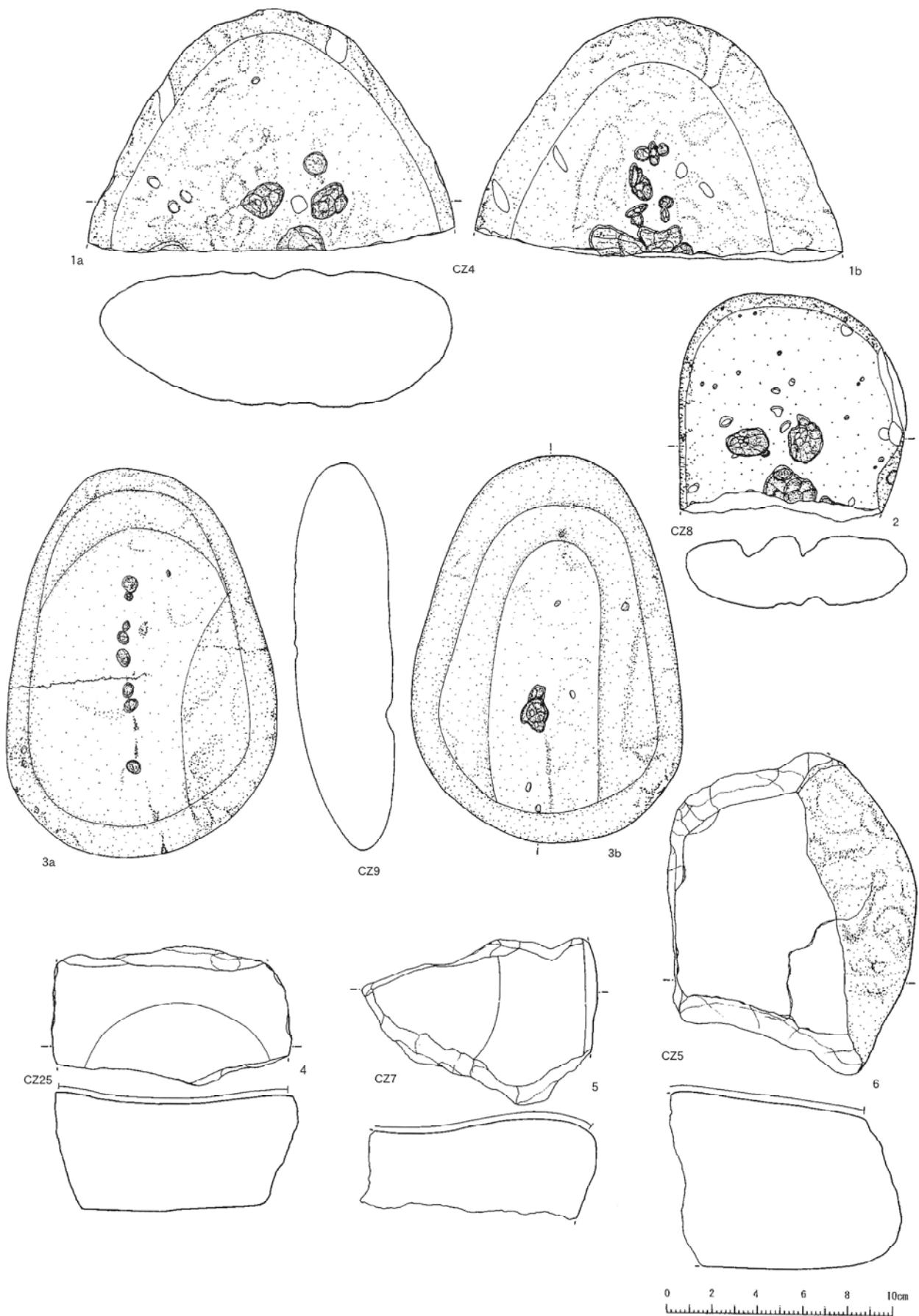
第11図 上谷地B遺跡出土石器実測図(3)



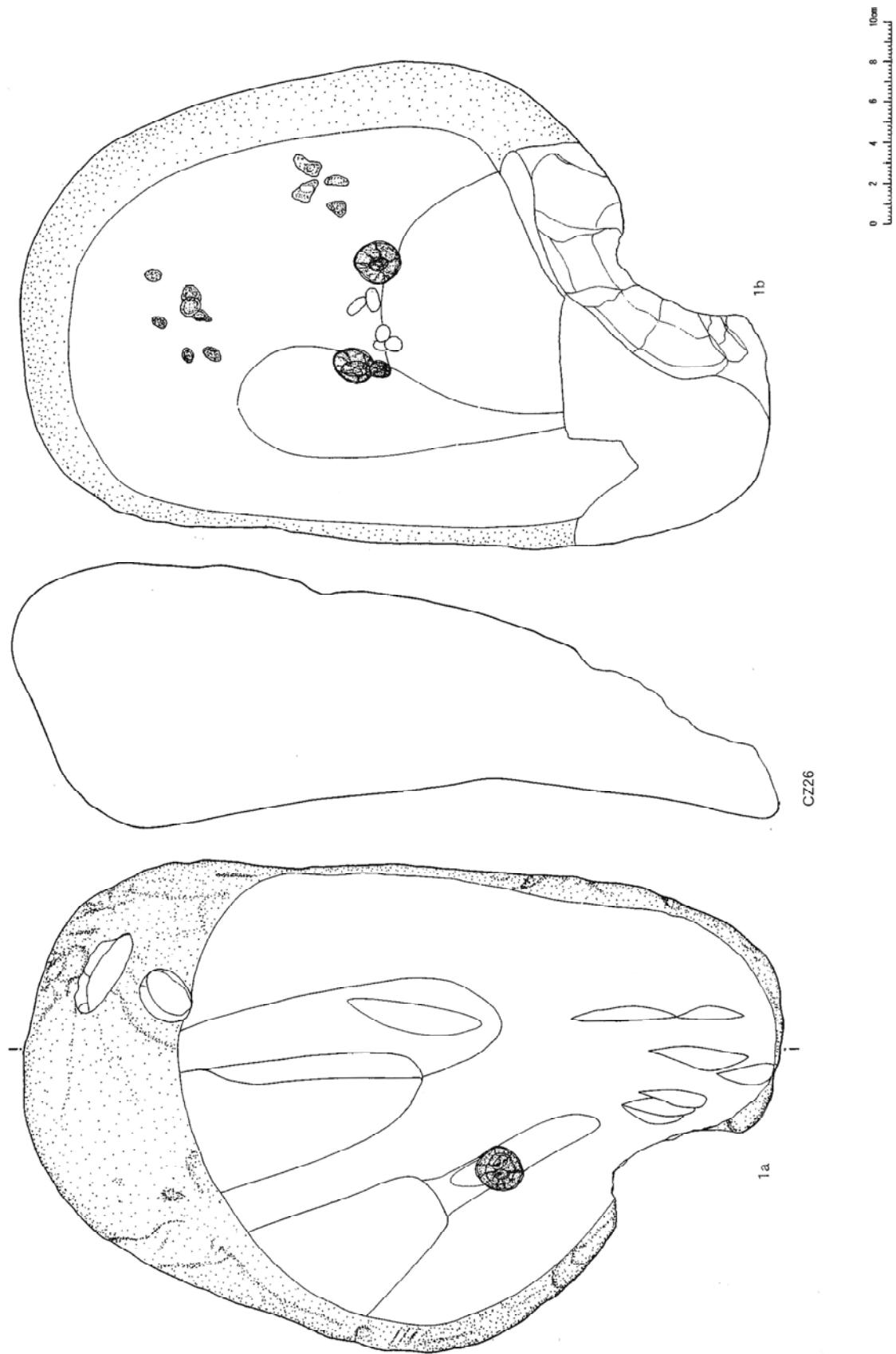
第12図 上谷地B遺跡出土礫器実測図(1)



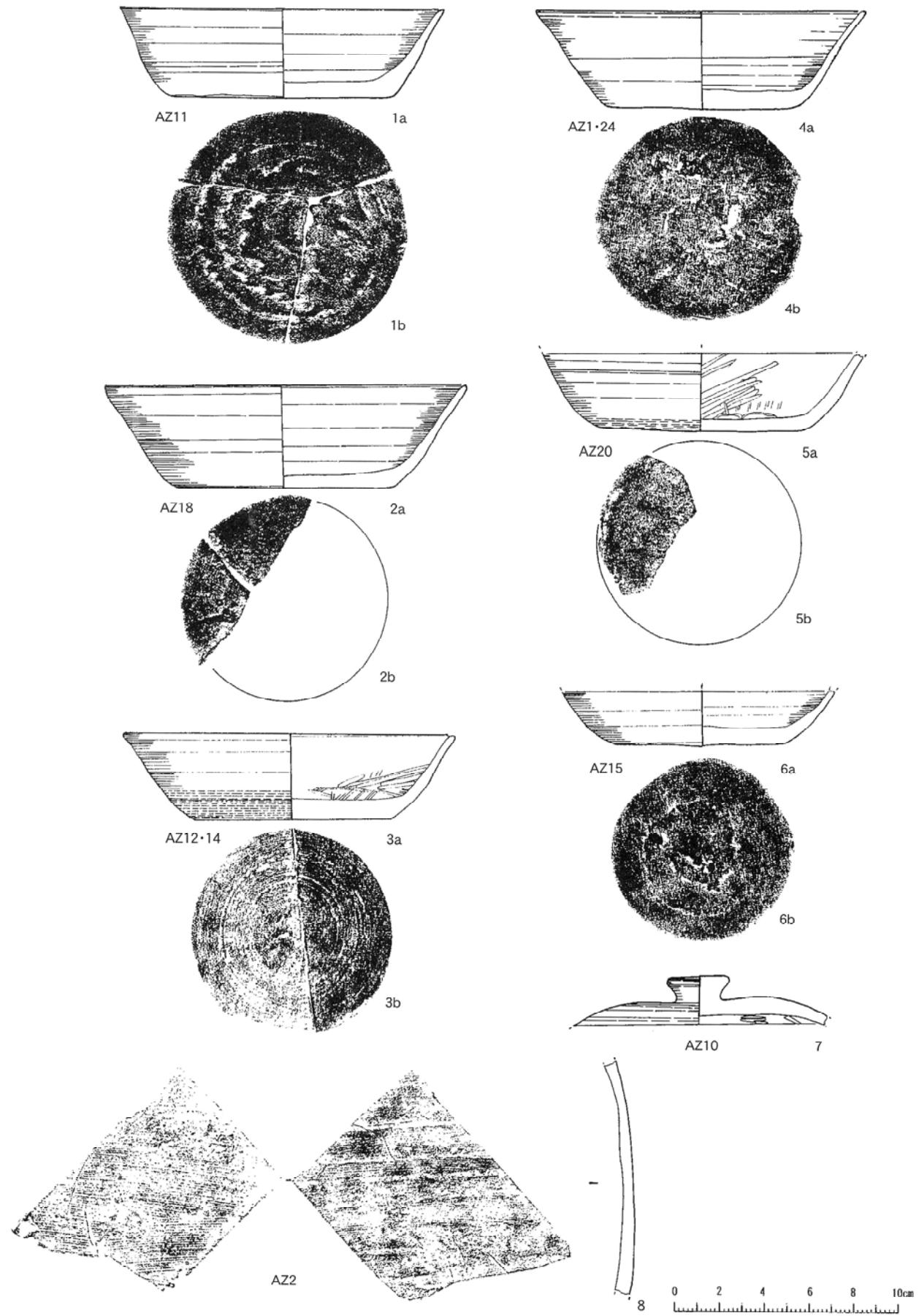
第13図 上谷地B遺跡出土礫器実測図(2)



第14図 上谷地B遺跡出土礫器実測図(3)



第15図 上谷地B遺跡出土礫器実測図(4)



第16図 上谷地B遺跡出土土師器、須恵器実測図

第1表 上谷地B遺跡出土土器観察表

No.	挿図No.	写真図版	出土地区	器種	部位	分類	文様	胎土	焼成	備考
1	第5図1	第2図版34	一次調査区	深鉢形土器	口縁部	a	帯状連結文	石英砂少量	良好	AZ17
2	第5図2	第3図版36	一次調査区	小型土器	口縁部	b	入組帶状文	石英砂少量	良好	AZ5
3	第5図3	第3図版35	一次調査区	浅鉢形土器	口縁部	b	玉抱三叉文	石英砂少量	良好	AZ8
4	第6図1	第3図版1	一次調査区	鉢形土器	口縁部	a	帯状文	石英砂少量	良好	
5	第6図2	第3図版2	一次調査区	台付鉢形土器	口縁部	b	連結文	石英砂少量	良好	補修孔
6	第6図3	第3図版3	一次調査区	深鉢形土器	口縁部	a	帯状文	石英砂少量	良好	
7	第6図4	第3図版4	一次調査区	浅鉢形土器	口縁部	b	三叉文	石英砂少量	良好	
8	第6図5	第3図版5	一次調査区	小型土器	口縁部	a	連結文	石英砂微量	良好	
9	第6図6	第3図版6	一次調査区	深鉢形土器	胴部	b	入組文	石英砂多量	良好	
10	第6図7	第3図版8	一次調査区	深鉢形土器	胴部	a	入組文	石英砂少量	良好	炭化物付着
11	第6図8	第3図版9	一次調査区	深鉢形土器	口縁部	a	連結文	石英砂少量	良好	突起部有
12	第6図9	第3図版7	一次調査区	浅鉢形土器	口縁部	a	入組帶状文	石英砂少量	良好	
13	第6図10	第3図版10	一次調査区	深鉢形土器	口縁部	a	入組帶状文	石英砂少量	良好	突起部有
14	第6図11	第3図版15	一次調査区	深鉢形土器	胴部	b	入組帶状文	石英砂多量	良好	
15	第6図12	第3図版11	一次調査区	浅鉢形土器	口縁部	a	入組帶状文	石英砂少量	良好	突起部有
16	第6図13	第3図版12	一次調査区	浅鉢形土器	口縁部	b	入組文	石英砂少量	良好	
17	第6図14	第3図版13	一次調査区	鉢形土器	胴部	b	入組帶状文	石英砂多量	良好	
18	第6図15	第3図版14	一次調査区	浅鉢形土器	胴部	b	入組文	石英砂多量	良好	
19	第6図16	第3図版17	一次調査区	深鉢形土器	胴部	a	入組帶状文	石英砂多量	良好	
20	第6図17	第3図版18	一次調査区	深鉢形土器	口縁部	a	入組帶状文	石英砂微量	良好	波状口縁 炭化物付着
21	第6図18	第3図版16	一次調査区	鉢形土器	口縁部	b	入組帶状文	石英砂微量	良好	
22	第6図19	第3図版32	一次調査区	鉢形土器	口縁部	b	入組帶状文	石英砂多量	良	
23	第6図20	第3図版21	一次調査区	鉢形土器	口縁部	a	入組帶状文	石英砂少量	良好	補修孔
24	第6図21	第3図版34	一次調査区	台付鉢形土器	口縁部	b	珠子文	石英砂少量	良好	
25	第6図22	第3図版20	一次調査区	深鉢形土器	口縁部	a	入組帶状文	石英砂少量	良好	
26	第6図23	第3図版22	一次調査区	深鉢形土器	口縁部	a	突刺文	石英砂多量	良好	
27	第6図24	第3図版19	一次調査区	鉢形土器	胴部	b	入組帶状文	石英砂少量	良好	
28	第6図25	第3図版23	一次調査区	鉢形土器	胴部	a	帯状突刺文	石英砂多量	不良	
29	第6図26	第3図版24	一次調査区	深鉢形土器	口縁部	a	帯状連結文	石英砂少量	良好	
30	第6図27	第3図版25	一次調査区	深鉢形土器	口縁部	a	帯状文	石英砂多量	良好	
31	第6図28	第3図版33	一次調査区	鉢形土器	口縁部	a	帯状文	石英砂微量	良	
32	第6図29	第3図版27	一次調査区	深鉢形土器	口縁部	a	入組帶状文	石英砂少量	良好	
33	第6図30	第3図版26	一次調査区	鉢形土器	胴部	b	入組帶状文	石英砂微量	良好	
34	第6図31	第3図版28	一次調査区	鉢形土器	口縁部	b	入組状文	石英砂多量	不良	
35	第6図32	第3図版29	一次調査区	鉢形土器	胴部	b	入組帶状文	石英砂少量	良好	
36	第6図33	第3図版30	一次調査区	浅鉢形土器	口縁部	b	入組状文	石英砂少量	良好	
37	第6図34	第3図版31	一次調査区	深鉢形土器	口縁部	a	連結文	石英砂少量	良好	突起部有
38	第7図1	第2図版1	一次調査区	台付鉢形土器	口縁部	c	羊齒状文	石英砂多量	不良	炭化物付着
39	第7図2	第2図版2	一次調査区	台付浅鉢土器	口縁部	c	羊齒状文	石英砂少量	良好	
40	第7図3	第2図版3	一次調査区	台付鉢形土器	口縁部	c	羊齒状文	石英砂多量	良好	
41	第7図4	第2図版4	一次調査区	台付鉢形土器	口縁部	c	珠子文	石英砂少量	良好	
42	第7図5	第2図版5	一次調査区	台付浅鉢土器	口縁部	c	羊齒状文	石英砂少量	良好	
43	第7図6	第2図版12	一次調査区	浅鉢形土器	口縁部	c	珠子文	石英砂多量	良好	
44	第7図7	第2図版6	一次調査区	台付鉢形土器	口縁部	c	珠子文	石英砂多量	良好	
45	第7図8	第2図版13	一次調査区	小型土器	口縁部	c	羊齒状文	石英砂多量	良好	
46	第7図9	第2図版7	一次調査区	浅鉢形土器	口縁部	c	珠子文	石英砂多量	良好	
47	第7図10	第2図版8	一次調査区	浅鉢形土器	胴部	c	羊齒状文	石英砂微量	良好	綾縞
48	第7図11	第2図版11	一次調査区	台付浅鉢土器	胴下部	c	珠子文	石英砂少量	良好	
49	第7図12	第2図版9	一次調査区	浅鉢形土器	胴部	c	羊齒状文	石英砂微量	良好	
50	第7図13	第2図版14	一次調査区	浅鉢形土器	胴部	c	羊齒状文	石英砂少量	良好	
51	第7図14	第2図版23	一次調査区	浅鉢形土器	胴下部	b	雲形文	石英砂微量	良好	漆付着
52	第7図15	第2図版16	一次調査区	鉢形土器	胴部	a	入組帶状文	石英砂微量	良好	
53	第7図16	第2図版17	一次調査区	台付浅鉢土器	胴下部	a	帯状文	石英砂微量	良好	
54	第7図17	第2図版18	一次調査区	台付浅鉢土器	口縁部	b	入組帶状文	石英砂多量	良好	

No.	挿図No.	写真図版	出土地区	器種	部位	分類	文様	胎土	焼成	備考
55	第7図18	第2図版19	一次調査区	鉢形土器	胴上部	a	連結文	石英砂微量	良好	
56	第7図19	第2図版21	一次調査区	鉢形土器	口縁部	b	入組帶状文	石英砂少量	良好	
57	第7図20	第2図版22	一次調査区	浅鉢形土器	口縁部	b	入組帶状文	石英砂微量	良好	
58	第7図21	第2図版10	一次調査区	小型土器	頸部	b	珠子文	石英砂少量	良好	
59	第7図22	第2図版15	一次調査区	浅鉢形土器	口縁部	b	入組三叉文	石英砂微量	良好	突起部有
60	第7図23	第2図版20	一次調査区	小型土器	口縁部	b	入組文	石英砂微量	良好	
61	第7図24	第2図版32	一次調査区	台付鉢形土器	口縁部	a	玉抱三叉文	石英砂微量	良好	
62	第7図25	第2図版24	一次調査区	深鉢形土器	胴部	a	玉抱三叉文	石英砂多量	良	
63	第7図26	第2図版29	一次調査区	深鉢形土器	口縁部	b	入組帶状文	石英砂微量	良好	突起部有
64	第7図27	第2図版26	一次調査区	台付浅鉢土器	口縁部	b	入組三叉文	石英砂少量	良好	
65	第7図28	第2図版31	一次調査区	鉢形土器	胴部	a	入組帶状文	石英砂多量	良	
66	第7図29	第2図版30	一次調査区	鉢形土器	口縁部	c	入組三叉文	石英砂微量	良好	
67	第7図30	第2図版25	一次調査区	鉢形土器	胴部	c	入組帶状文	石英砂多量	良	
68	第7図31	第2図版27	一次調査区	台付浅鉢土器	胴上部	c	羊齒状文	石英砂少量	良好	
69	第7図32	第2図版28	一次調査区	深鉢形土器	胴部	c	入組帶状文	石英砂微量	良好	内黒
70	第7図33	第2図版33	一次調査区	深鉢形土器	胴上部	a	羊齒状文	石英砂多量	良好	沈線による綾織
71	第8図1			台付土器	脚部		無文	石英砂少量	良好	
72	第8図2			台付土器	底部		無文	石英砂少量	良好	
73	第8図3			台付土器	底部		無文	石英砂多量	良	
74	第8図4			台付土器	底部		無文	石英砂多量	良好	
75	第8図5			台付土器	胴下部		無文	石英砂少量	良	
76	第8図6			深鉢形土器	口縁部		条痕文	石英砂少量	良好	
77	第8図7			深鉢形土器	胴部		条痕文	石英砂多量	良好	
78	第8図8			深鉢形土器	口縁部		条痕文	石英砂多量	良好	
79	第8図9			深鉢形土器	胴部		条痕文	石英砂少量	良好	
80	第8図10			深鉢形土器	口縁部		条痕文	石英砂少量	良好	
81	第8図11			深鉢形土器	胴部		条痕文	石英砂多量	良好	
82	第8図12			深鉢形土器	胴部		条痕文	石英砂少量	良好	
83	第8図13			深鉢形土器	口縁部		斜繩文	石英砂多量	良好	
84	第8図14			深鉢形土器	胴部部		斜繩文	石英砂多量	良好	綾織
85	第8図15			深鉢形土器	胴部		斜繩文	石英砂少量	良好	ナデ調整
86	第8図16			深鉢形土器	口縁部		斜繩文	石英砂多量	良好	綾織
87	第8図17			深鉢形土器	胴部		無文	石英砂多量	良好	
88	第8図18			深鉢形土器	胴下部		斜繩文	石英砂多量	良好	表炭化物有

第2表 上谷地B遺跡石器計測表

No.	器種	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	挿図番号	写真図版	出土地区	遺物No.	備考
1	無茎石鏃	珪質頁岩	23.3	11.2	2.9	0.8	第9図1	第4図1		31	
2	有茎石鏃	珪質頁岩	(22.9)	18.3	4.4	(1.1)	第9図2	第4図2		16	欠損
3	有茎石鏃	珪質頁岩	(17.7)	14.3	4.2	(0.6)	第9図3	第4図3		21	
4	有茎石鏃	珪質頁岩	18.0	9.5	3.1	0.4	第9図4	第4図4		15	
5	有茎石鏃	チャート	(22.4)	11.7	4.3	(0.9)	第9図5	第4図5	底面	18	
6	有茎石鏃	珪質頁岩	(25.2)	10.4	4.2	(0.9)	第9図6	第4図6		30	
7	有茎石鏃	珪質頁岩	(29.7)	13.8	5.6	(1.5)	第9図7	第4図7	2F	8	欠損
8	有茎石鏃	珪質頁岩	32.8	12.2	5.7	1.5	第9図8	第4図8	2F	11	
9	石錐	珪質頁岩	43.3	9.2	4.8	1.9	第9図9	第4図9		12	
10	石錐	珪質頁岩	27.3	8.2	6.3	1.3	第9図10	第4図10	2F	9	
11	石錐	珪質頁岩	38.0	9.8	8.0	3.1	第9図11	第4図11	2F	10	
12	石錐	珪質頁岩	41.5	17.5	10.6	6.4	第9図12	第4図12	2F	2	
13	石錐	珪質頁岩	51.0	31.0	11.3	13.2	第9図13	第4図13		22	
14	石錐	瑪瑙	33.0	23.2	8.6	4.3	第9図14	第4図14		24	
15	範状石器	珪質頁岩	(62.2)	(35.5)	(18.3)	(37.0)	第9図17	第4図17		26	
16	範状石器	珪質頁岩	(46.0)	(31.0)	(13.5)	(17.6)	第9図18			27	
17	範状石器	珪質頁岩	(65.9)	(38.6)	(15.5)	(39.8)	第9図19	第4図18		25	
18	範状石器	珪質頁岩	(29.0)	(20.0)	(14.7)	(4.5)	第9図20	第4図19	2F	4	

No.	器種	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	挿図番号	写真図版	出土地区	遺物No.	備考
19	籠状石器	珪質頁岩	(48.4)	(28.4)	(12.3)	(17.8)					欠損
20	籠状石器	瑪瑙	(32.0)	(19.7)	(9.5)	(6.3)					欠損
21	横型石匙	珪質頁岩	51.6	57.2	6.0	20.0	第10図 1	第4図 20		23	
22	横型石匙	珪質頁岩	52.6	64.4	11.0	25.8	第10図 2	第4図 22	2F	7	
23	横型石匙	珪質頁岩	49.1	67.5	12.1	38.4	第10図 3	第4図 23	2F	1	
24	横型石匙	珪質頁岩	39.7	62.3	6.0	21.0	第10図 4	第4図 24		17	
25	横型石匙	珪質頁岩	34.5	65.0	7.1	20.4	第10図 5	第4図 25	2F	5	
26	縦型石匙	珪質頁岩	(67.9)	(30.7)	(9.3)	(23.2)	第10図 6	第4図 21	3F	20	つまみの部欠損
27	縦型石匙	珪質頁岩	77.3	27.4	11.1	25.8	第10図 8	第4図 31	2F	3	
28	磨製石斧	緑泥片岩	(31.8)	(31.5)	(23.0)	(35.4)	第9図 15	第4図 15		28	
29	撥形石斧	珪質頁岩	(74.0)	(44.0)	(28.5)	(44.6)	第9図 16	第4図 16		29	
30	撥形石斧	珪質頁岩	105.7	68.9	20.1	84.5	第11図 1	第4図 28	2F	6	
31	撥形石斧	珪質頁岩	76.5	53.2	12.2	44.0	第11図 2	第4図 29		14	
32	撥形石斧	珪質頁岩	83.5	49.0	17.6	70.0		第4図 30	トレンチ		
33	石核	珪質頁岩				248.0					
34	石核	珪質頁岩				110.0					
35	石核	珪質頁岩				120.0					

第3表 上谷地B遺跡出土石製品計測表

No.	遺物名	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	挿図番号	写真図版	遺物No.
1	円盤型石製品	砂岩	44.1	39.6	11.8	29.6	第10図 7	第4図 26	3
2	石錐	安山岩	81.7	65.5	26.1	185.0	第11図 3	第4図 27	2

第4表 上谷地B遺跡礫器計測表

No.	形態	細類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	挿図番号	出土地区	遺物No.	備考
1	敲石	a	安山岩	95.3	86.5	55.1	610	第12図 1	2F	28	
2	敲石	a	安山岩	70.3	62.5	46.6	280	第12図 2	2F	20	
3	敲石	a	安山岩	74.6	73.9	46.1	336	第12図 3	2F	15	磨面有り
4	敲石	b	安山岩	129.2	46.7	35.3	263	第12図 4	2F	19	
5	敲石	b	安山岩	132.4	51.0	40.5	430	第12図 5	2F	11	
6	敲石	b	安山岩	76.0	62.0	56.1	371	第12図 6	2F	23	全面磨
7	敲石	c	安山岩	113.0	74.0	44.4	508	第12図 7		1	全面磨
8	磨石	c	安山岩	108.2	87.2	54.5	771	第12図 8		2	全面磨
9	磨石	c	安山岩	79.1	70.0	50.5	420	第12図 9	2F	24	
10	磨石	b	安山岩	90.1	82.9	70.8	746	第12図 10	2F	22	
11	敲石	b	安山岩	81.5	52.6	45.7	263	第13図 1	2F	16	
12	敲石	b	安山岩	75.2	59.0	41.2	159	第13図 2	2F	29	
13	敲石	b	安山岩	100.2	74.8	46.0	482	第13図 3	2F	27	
14	敲石	b	安山岩	95.1	(68.9)	58.1	(534)	第13図 4	2F	18	磨面有り
15	敲石	b	安山岩	82.1	78.8	55.6	500	第13図 5	2F	13	磨面有り
16	敲石	b	安山岩	91.9	67.9	51.1	458	第13図 6	2F	12	磨面有り
17	敲石	a	安山岩	89.5	64.1	40.8	348	第13図 7	2F	17	
18	敲石	b	安山岩	103.0	61.2	48.9	425	第13図 8	2F	10	
19	敲石	a	安山岩	96.7	82.8	52.3	597	第13図 9	2F	14	
20	台石		安山岩	(110.0)	(164.2)	(62.0)	(1230)	第14図 1	2F	4	
21	台石		安山岩	(97.5)	(101.2)	(33.5)	(400)	第14図 2		8	
22	台石		安山岩	176.2	122.0	40.0	1289	第14図 3	2F	9	
23	石皿	砂岩	(63.5)	108.2	(53.5)	(482)	第14図 4	最下層	25	破片	
24	石皿	安山岩	(75.6)	—	—	(445)	第14図 5	2F	7	破片	
25	石皿	安山岩	(145.5)	—	(81.0)	(1840)	第14図 6	2F	5	破片	
26	砥石		安山岩	(383.1)	(244.2)	(136.0)		第15図 1	最下層	26	

V　まとめ

今回の調査区からは、遺物を中心に縄文時代～中世までの時期が認められている。これにより、各時期の河川跡の変容が明かになってきた。ここでは河川跡が果たした機能的な役割について検討し、まとめとする。

縄文時代後期終末期～晩期中葉は、北方に位置する野際遺跡発掘調査の成果から明らかになっておりこの時期は、川幅が約30mあったと推測され水深は北方が浅く南方が深い状況と判断される。また、季節や天候によって河川跡が変化して、作業場として活用された時期があったと推測される。

出土した石器や礫器は、南方の河岸段丘から遺棄されたものとみるよりは、むしろ河川跡が作業場として機能し、その後に埋没した可能性があると考えられるが今回の調査では、明確にできなかった。

出土土器には、前述した土器以外は混入しておらず限られた期間の集落であると推測される。

奈良時代の遺物は、官衙で知られる大浦B遺跡の特期に相当する。出土状況から祭祀で使用したと推測され、周辺に集落が存在した可能性がある。野際遺跡からは、布目瓦が出土しているが奈良時代の遺構は検出されなかった。

残るは、南方の河岸段丘であり、14世紀代に発達した段丘を利用する形態で、河川を防御とする「丘城」の仲間と推測される。

中世の瓦器系中世陶器は、館跡に関連する遺物として把握される。野際遺跡からも方形に巡る堀跡が確認されているが、関連する遺物や建物跡は検出されなかった。出土地点から考慮すれば、南方の館跡からの流入であろう。

このように、河川跡は縄文時代には生活、生産の場として、奈良時代には祭祀の場として、さらに中世は館を守る堀としてそれぞれの時期に活用されてきたことが判明したと言える。最後に今回の発掘調査に関してご協力頂きました地元の方々を始め関係機関に御礼申し上げます。

参考文献

- | | |
|------------------------------|--|
| 1981　米沢市都市計画課・まんぎり会・米沢市教育委員会 | 米沢市埋蔵文化財調査報告書第7集
「笛原」 |
| 1998　米沢市教育委員会 | 米沢市埋蔵文化財調査報告書第61集
「遺跡詳細分布調査報告書第11集」 |
| 2006　米沢市教育委員会 | 米沢市埋蔵文化財調査報告書第90集
「野際遺跡」 |

報告書抄録

ふりがな	かみやちびーいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	上谷地B遺跡発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	米沢市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第93集
編著者名	菊地政信
編集機関	米沢市教育委員会
所在地	〒992-0012 山形県米沢市金池三丁目1-55号 TEL(0238) 22-5111
発行年月日	西暦2008年3月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かみやちびー 上谷地B	よねざわし 米沢市 おおあざかわい 大字川井 あさかみ やち 字上谷地	6202	A-268	37度 54分 56秒	140度 9分 35秒	20070617 ～ 20070619	239	宅地造成 予定地に 伴う緊急 発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上谷地B	河川跡 の遺物 包含層	縄文時代 後期末葉 ～ 晩期中葉	河川跡	縄文土器	縄文時代、奈良時代 中世の遺物が河川跡から出土しており、各時期に於ける河川の役割が明かになった。

写 真 図 版

第一図版 上谷地B遺跡の発掘



▲表土剥離風景（南東から）



▲調査風景（南西から）



▲調査区全景（南東から）



▲調査区全景（南西から）



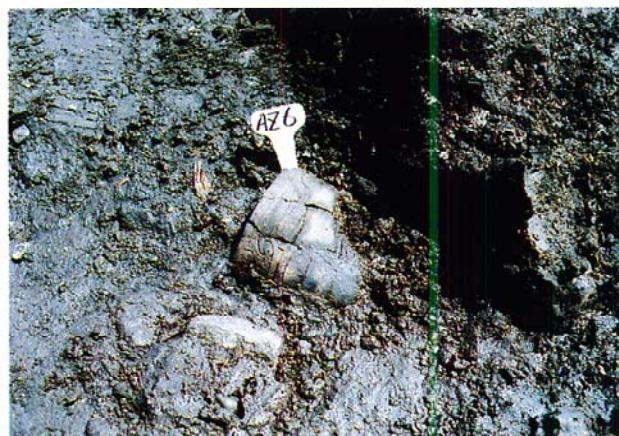
▲調査区西側近景（南西から）



▲調査区東側近景（南西から）



▲遺物出土状況（西側調査区Ⅱ層面）



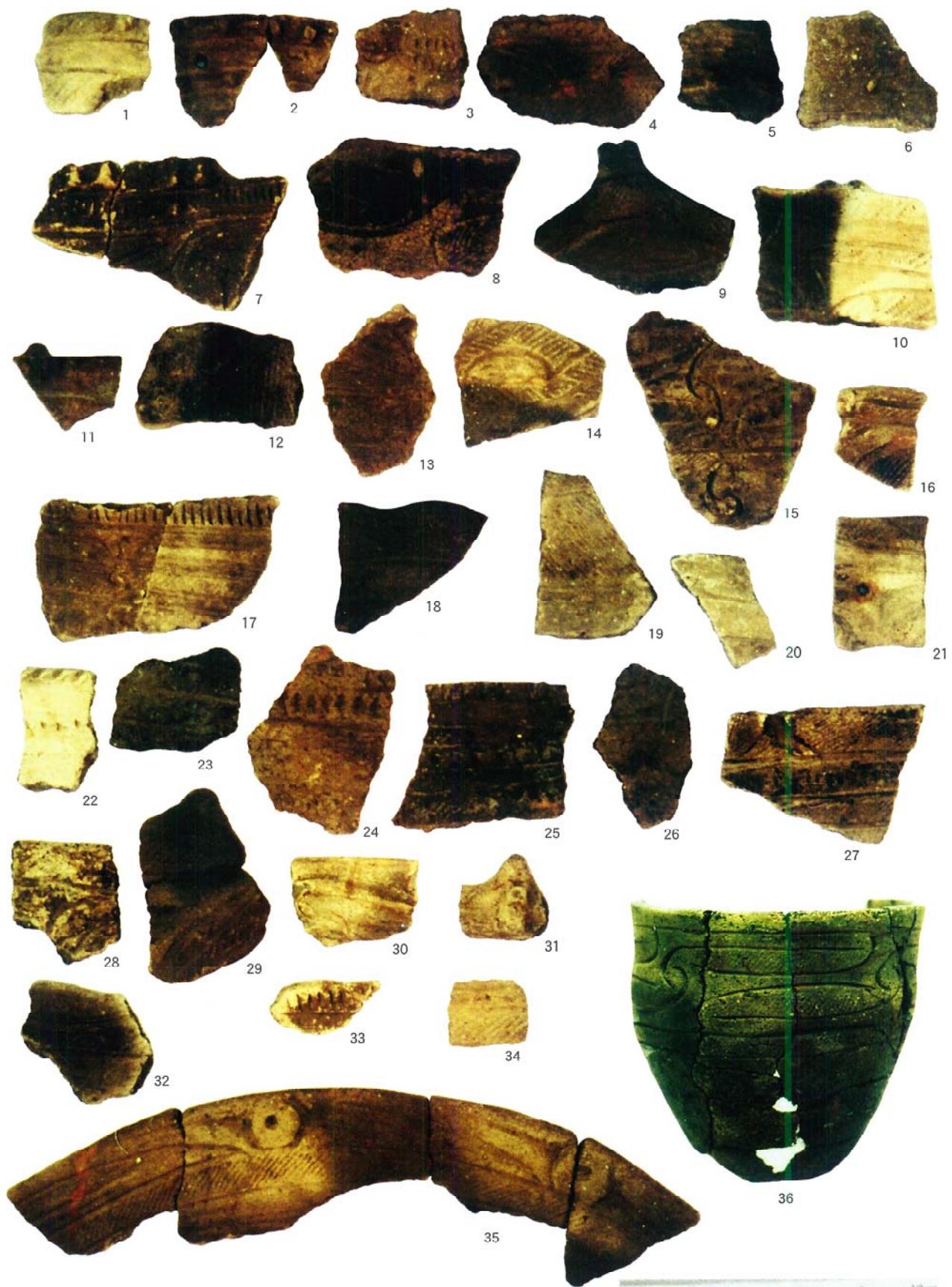
▲遺物出土状況（西側調査区Ⅲ層面）

第二図版 上谷地B遺跡出土土器



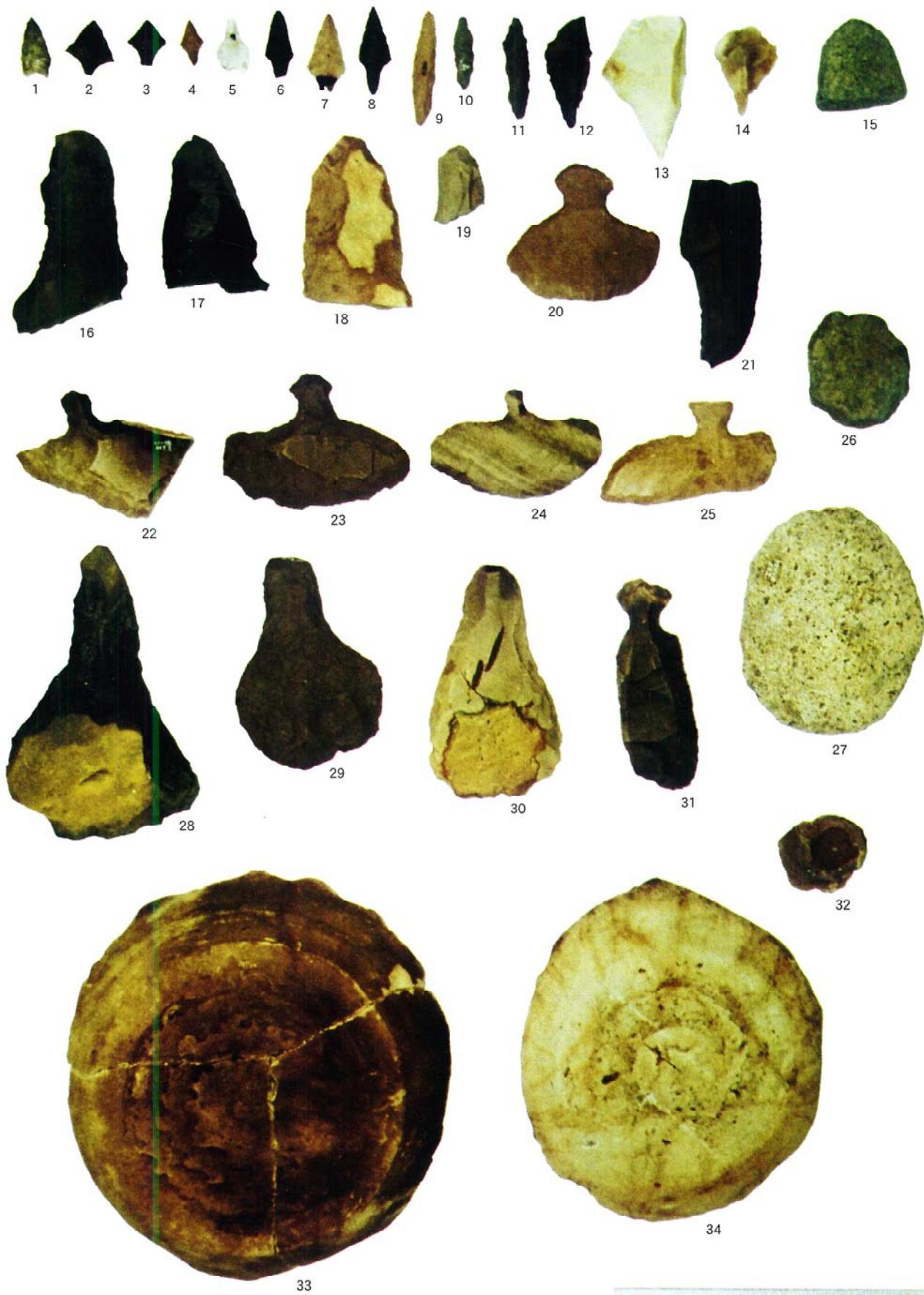
0 2 4 6 8 10cm

第三図版 上谷地B遺跡出土土器



0 2 4 6 8 10cm

第四圖版 上谷地B遺跡出土遺物



0 2 4 6 8 10cm

米沢市埋蔵文化財調査報告書 第93集

**上谷地B遺跡
発掘調査報告書**

平成20年3月19日 印刷
平成20年3月31日 発行

発行 米沢市教育委員会
米沢市金池三丁目1-55
TEL (0238) 22-5111
印刷 有限会社みなみ工房
米沢市諸仏町4866-18
TEL (0238) 38-4639